

アイルランドの妖精

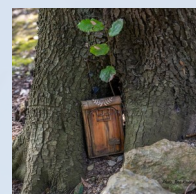
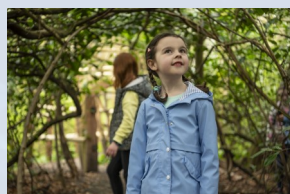
令和5年6月30日発行

袋井市とラグビーワールドカップ（2019年）やオリンピック事前キャンプ（2021年）を通じて交流のあるアイルランドは、「妖精の国」として有名です。

アイルランドには「妖精に注意!」という看板や、妖精が出入りするドアがある木があります。

近年は、妖精のドアを探す「fairy trail（フェアリートレイル/妖精の道）」も人気です。

日本で「妖精」といえば、人間に似た小さく可愛い姿を想像しますね。しかし、アイルランドの妖精は日本の妖怪によく似た存在も多いです。それぞれが個性的で、小説や映画、漫画、ゲームなどのモチーフとなることも多くあります。今回は、そんなアイルランドの有名な妖精をご紹介します。



レプラコーン (Leprechaun)

レプラコーンは、アイルランドで最もよく知られている妖精です。靴職人で、童話『小人の靴屋』に登場する妖精とはこのレプラコーンのこととされます。

レプラコーンは虹のふもとに壺に金貨をためこんでいて、レプラコーンに出会った人は、その金貨で大金持ちになれるといわれています。

デュラハン (Dullahan)

首のない男の姿の妖精で、馬に乗っています。



ケット・シー (Cait Sith)

猫の妖精で人語をしゃべり、二本足で歩きます。



バンシー (banshee)

女の妖精で、泣き声で家人の死を予告するといわれています。



プーカ (Puca)

人間に害をもたらすとも、恩恵をもたらすともいわれ、その姿は、馬や犬など変幻自在です。

